

婦人科腫瘍委員会

委員長 片 瀨 秀 隆

副委員長 榎 本 隆 之

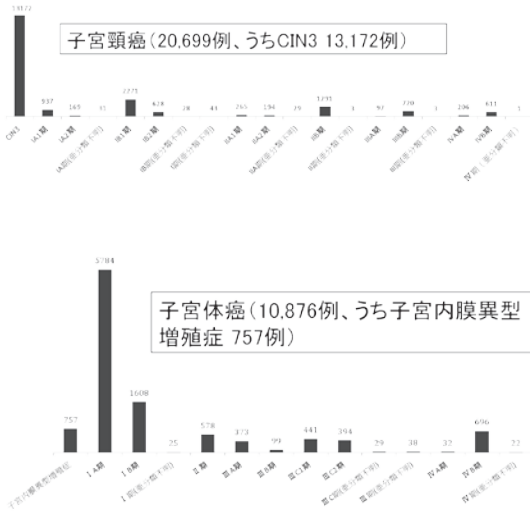
委員 井篁 一彦, 牛嶋 公生, 齋藤 俊章, 杉山 徹, 鈴木 直
田代 浩徳, 永瀬 智, 万代 昌紀, 三上 幹男, 宮本 新吾

1. 常置的事業

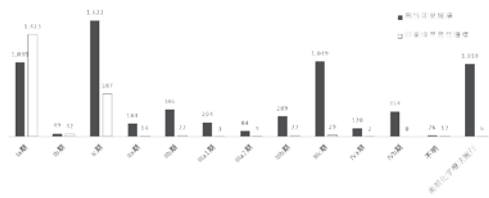
婦人科悪性腫瘍登録事業として、平成26年度より東北大学病院臨床研究推進センターと契約して進めている。平成28年度は以下の内容を遂行した。

- (1) 2016年の婦人科悪性腫瘍(子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍)症例のオンライン登録事業を行った。
- (2) 登録の430機関より2015年1月1日から12月31日までに治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性, 境界悪性)症例を集計・解析し、疑義照会を行った上で、日産婦誌ならびに婦人科腫瘍委員会ホームページ上に、2015年患者年報として報告した(日産婦誌 2017: 69(3); 1171-1216)。

以下に2015年患者年報の抜粋を示す。

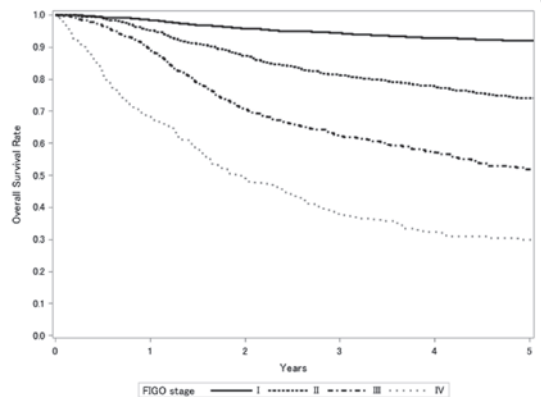


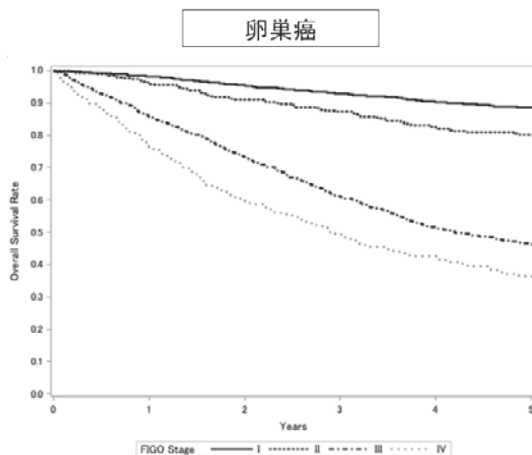
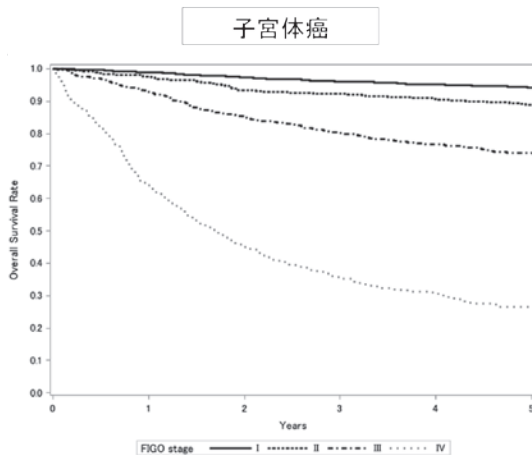
悪性卵巣腫瘍(6,424例)、卵巣境界悪性腫瘍(2,181例)



- (3) 2010年に治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性, 境界悪性)症例の予後情報を集計・解析し、疑義照会を行ったうえで、日産婦誌ならびに婦人科腫瘍委員会ホームページ上に、第58回治療年報(2010年治療開始症例)として報告した(日産婦誌 2016: 69(3); 1217-1288)。以下に第58回治療年報の抜粋を示す。

子宮頸癌





- (4) 日産婦誌ならびに婦人科腫瘍委員会ホームページ上に、2014年の絨毛性疾患地域登録成績を報告した(日産婦誌 2017: 69(3): 1289-1292).

2. 親委員会

- (1) 臨床研究管理・審査委員会からの諮問を受けて、婦人科悪性腫瘍登録事業データベース使用申請の審査を行った。
- (2) 卵巣癌・卵管癌・腹膜癌のFIGO手術進行期分類およびWHO組織分類の改訂が行われたことに伴い、卵巣腫瘍取扱い規約改訂小委員会を立ち上げ、『卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 臨床編 第1版』を2015年8月に刊行した。引き続き、『卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 病理

編 第1版』を作成し、理事会の承認を得て、2016年7月に発刊した(卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 病理編 第1版 日本産科婦人科学会・日本病理学会、金原出版、2016)。



- (3) 子宮頸癌ならびに子宮体癌のWHO組織分類の改訂に伴い、各々の取扱い規約 病理編の改訂が理事会で承認されたことを受けて、子宮頸癌取扱い規約改訂小委員会ならびに子宮体癌取扱い規約改訂小委員会を組織し、現在作成作業を行っている。尚、本規約は2017年7月に発刊予定である。
- (4) 性成熟期の女性に発症する疾患の臨床的対応の全国の実態を4つの小委員会を設置し調査した。引き続き、それぞれの対象疾患の本邦における実態の解析を進めている。詳細は、以下の小委員会報告で述べる。
- (5) 「婦人科がん治療ガイドライン導入によるがん治療の均霑化の検証—治療レベルの施設間差—、日本婦人科腫瘍学会専門医制度(指定修練施設認定)の検証に関する研究」の検討について、三上幹男委員を中心に継続して行っている。その結果の一部を Society of Gynecologic Oncology 48th Annual Meeting(National Harbor, MD, USA)で発表した。
- (6) 婦人科悪性腫瘍登録事業データベースを用いた子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌の治療動向の推移および登録事業の課題の検証について、継続して行っている。
- (7) 臨床研究の審査ならびにデータベースの管理に関する本委員会の内規作成の検討について、平成

28年度に本学会内に新たに構成された「臨床効果データベース整備事業ワーキンググループ」の活動と連動して検討を行っている。

- (8) 良性婦人科手術における卵管切除の取り扱いについて、病理学的観点も含めた本邦の指針作成を行うために、理事会の承認を得て、全国の施設への実態調査について三上幹男委員を中心に行った。解析の結果を *Journal of Gynecologic Oncology* 誌に投稿し、受理された。今後この結果をもとに、本委員会としての「良性婦人科手術における卵管切除の取扱い」についての考え方を日産婦誌上で公表予定である。
- (9) 2012年発刊の『子宮頸癌取扱い規約第3版』ならびに『子宮体癌取扱い規約第3版』の一部の臨床的取扱いについて、これまでに提起された問題点を採り上げ、今後の臨床的対応について検討した。その結果について理事会の承認が得られ、日産婦誌上で公表予定である。
- (10) 「本邦における子宮内膜症の癌化の頻度と予防に関する疫学研究(JEMES)」の検討を継続して行っている。

3. 小委員会事業

継続の2小委員会に加え、常置的事业に基づいて新規の2小委員会が2015年度に設置された。さらに、性成熟期女性に発症する4疾患の発症動向と臨床的対応の全国の実態の調査を目的とする新たな4小委員会が2015年度に設置された。計8つの小委員会で以下の活動を行った。

- (1) 婦人科悪性腫瘍登録システム強化に関する小委員会

委員長 永瀬 智
委員 青木大輔, 井篁一彦, 蜂須賀 徹,
山上 亘

稀な婦人科腫瘍(外陰癌, 膣癌, 子宮肉腫, 子宮腺肉腫, 絨毛性疾患)の登録を、2016年1月の治療開始症例から開始した。また、登録項目が変更となった卵巣腫瘍の登録データの品質管理を目指して、疑義照会項目の検討と再修正の徹底を行った。さらに、「婦人科腫瘍登録データを用いた本邦の婦人科悪性腫瘍の進行期分類, 組織分類と予後の解析」の検討を継続して行っている。

- (2) 遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)の啓発および取り扱い小委員会

委員長 鈴木 直
委員 井篁一彦, 岩瀬春子, 牛嶋公生,
平沢 晃

HBOCに対する産婦人科としての対応として、リスク低減卵管卵巣摘出術(Risk Reducing Salpingo Oophorectomy: RRSO)やHBOCのサーベイランス, 婦人科腫瘍におけるHBOCの拾い上げなどに関する実態調査を行った。その結果を踏まえ、RRSOに関する考え方を作成し、理事会に承認が得られ、日産婦誌上で報告した(日産婦誌 2016: 68(6): 1332-1334)。

- (3) 婦人科がん取扱い規約改訂小委員会

委員長 杉山 徹
委員 榎本隆之, 岡本愛光, 田代浩徳,
馬場 長

「卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 病理編 第1版」を2016年7月に発刊した。さらに、「子宮頸癌取扱い規約 病理編 第4版」ならびに「子宮体癌取扱い規約 病理編 第4版」の作成作業を継続し、2017年7月に刊行予定である。

- (4) HPVワクチンの効果と安全性に関する調査小委員会

委員長 井篁一彦
委員 齋藤俊章, 鈴木 直, 万代昌紀,
宮城悦子

HPVワクチンの効果や安全性に対する情報収集, 分析を継続して行い、国民や会員へ正しい情報提供を行うことを目的とする中、子宮頸がん予防のポスターを本小委員会で作成し、理事会の承認を得て、全会員に送付した。また、本小委員会の事業の一環として、第69回日本産科婦人科学会学術講演会(広島市)において、2017年4月16日に日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会合同シンポジウム「HPVワクチンの日本の現状を科学する」を開催した。

- (5) 子宮頸部円錐切除術の実態調査に関する小委員会

委員長 三上幹男
委員 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬 智,
横山正俊

子宮頸部のCINならびに初期癌に対して広く行われている子宮頸部円錐切除術の症例について、婦人科

悪性腫瘍登録施設を対象に、対象症例、年齢、手術方法等の臨床的な実態調査を行った。この解析をもとに、研究報告と論文発表を進めている。

(6) 抗 NMDA 受容体抗体脳炎の全国調査に関する小委員会

委員長 田代浩徳

委員 坂口 勲, 梶田賢司, 万代昌紀,
宮本新吾

若年者の卵巣奇形腫に併発する抗 NMDA 受容体抗体脳炎の臨床的調査を、婦人科悪性腫瘍登録施設を対象に行った。この解析をもとに2次調査の後に、研究報告と論文発表を行う予定である。

(7) 遠隔再発・遠隔転移を来した子宮平滑筋腫瘍の臨床病理学的検討に関する小委員会

委員長 牛嶋公生

委員 小林裕明, 田代浩徳, 三上幹男,

宮本新吾

子宮筋腫として臨床的に対応され、再発・遠隔転移を来した症例について、婦人科悪性腫瘍登録施設を対象に、臨床病理学的な調査を行った。この解析をもとにした central pathological review の後、研究報告と論文発表を行う予定である。

(8) 稀少部位子宮内膜症の臓器分布と悪性化の実態調査に関する小委員会

委員長 万代昌紀

委員 榎本隆之, 大須賀 穰, 谷口文紀,
本田律生

卵巣、骨盤腹膜、子宮靱帯以外に発症する子宮内膜症の発症頻度とその悪性化例の調査を、厚生労働省難治性疾患等政策研究事業「難治性稀少部位子宮内膜症の集学的治療のための分類・診断・治療ガイドライン作成(大須賀班)」と共同で行った。この解析をもとに、論文発表を進めている。